

平成24年度 中間評価報告

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	表現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 学力向上を図るとともに資格取得を奨励し、生徒全員の進路実現をめざす。	① シラバスの内容改善と、教科研究会や研究授業の研究協議会、互観授業を充実させ、各教科と学科を核にして学校全体で授業改善に取り組む。	各教科と学科で授業改善についての取組を A 各学期に3回以上取り組んだ B 各学期に2回取り組んだ C 各学期に1回取り組んだ D 全く取り組むことができなかった	教職員対象に 7月にアンケート調査 A : 14% B : 56% C : 30% D : 0% 評価: A・B合わせて70%	教職員対象アンケート結果は、A・B合わせて70%となり、中間評価では判定基準の75% (昨年より5ポイントアップ) をクリアできなかった。シラバスに評価の観点を入れるとともに1学期中の互観授業を導入したが、昨年の中間評価時と同じ数字となった。今年度は総合訪問が9月に実施されるため、研究授業が1学期に1度も開催されなかったことがその理由の一つとしてあげられるが、常時の授業改善への取組が少ないことがはっきりした。今後は、2学期に実施される研究授業や互観授業を通して改善への取組を働きかけ、日々の授業改善への意識を高めていきたい。
	② 学力向上を図るために授業の課題やレポート内容を工夫するとともに、資格取得の補習指導を通して学習習慣を身に付けさせる。	課題・レポート・資格取得などや家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 7月にアンケート調査 A : 41% B : 46% C : 11% D : 2% 評価: A・B合わせて87%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて87%となり、中間評価では判定基準の80% (昨年より5ポイントアップ) をクリアできた。昨年の中間評価時より3ポイント増加しており、授業課題・レポート・資格取得の他、朝・昼・夜の補習等の成果であると考えられる。しかしながら、他の調査項目の家庭学習時間が「ほとんどしなかった」が相変わらず改善しておらず、学校の補習への依存が継続していることが分かる。後期も継続的に取組を進めて、家庭での自発的な学習を習慣づけるよう働きかけ、学力向上にも繋げるよう努力していきたい。
	③ 生徒が興味を持っている本を調査し、優先的に配置するなどにより図書室の利用を促し、調べ学習や読書習慣を身に付けさせる。	2学期末での図書室の延べ利用者数が A 4,000人以上 (1学期末1,500人以上) B 3,500人～3,999人 (1学期末1,400人～) C 3,200人～3,499人 (1学期末1,200人～) D 3,200人未満 (1学期末1,200人未満)	1学期末までの延べ利用者数 2,247人 評価: A (1学期)	昨年を上回り、1学期の目標数を達成することができた。全校生徒を対象にした読書アンケート調査、図書委員による読書アンケート集計、図書当番による読書日誌の記入、図書便りの発行、図書室のレイアウト等活発に委員会が活動した結果、生徒が本や読書に少しずつではあるが興味を持ち始めたといえる。また、7月に入り補習等で利用者が増えたことも要因の一つといえる。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習をさらに充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 750人以上 B 650人～750人未満 C 500人～650人未満 D 500人未満	1月末の資格・検定試験合格者数を検証 (7月末現在358人)	7月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は358人となり、半期で判断すると325人以上をクリアしてはいるが、現時点では判定基準Bの650人以上には達していない。教務課とも連携し、2学期以降も資格・検定試験の受験奨励および補習をさらに充実させるなどして目標達成に向けて努力していきたい。
	⑤ ジュニアマイスターのゴールド・シルバーに加えて校内顕彰のブロンズを新設し、学校全体で多くの資格や検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスターおよび校内認定者数が学校全体で A 60人以上 B 50人～59人 C 40人～49人 D 39人以下	7月の申請者数を検証 21人 (ゴールド 7人) (シルバー 14人)	7月末現在の集計では、ゴールドおよびシルバーの認定者数合計は21人となり、半期で判断すると25人以上をクリアしていない。今年度は資格・検定試験を通した学力向上を目指して、昨年の2倍に基準設定しており、現時点では判定基準Bの50人以上を達成するためには、上記④の具体的取組とともに、難易度の高い資格・検定合格に向けて、生徒への更なる働きかけと補習等を行っていく必要がある。現在、9月中旬の校内顕彰「ブロンズ」を新設するために準備しており、1年次からジュニアマイスター申請できるように改善し、学校全体で資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させたい。
	⑥ インターンシップを通して適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	進路説明会・LHなどによる説明や配布した進路情報により、意識が高まった生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 評価: B (85%)	意識が高まった割合は、85%であり、判定基準をクリアしている。今年度は、少しはリーマンショックからの立ち直り傾向が見られ、求人数も昨年度より増加した。しかし、経済の不安定がささやかれ、今後どうなっていくか予想が出来ない。現2年生の就職希望者は、今年度並みで多い。(4月進路希望調査より) 進路に対して、早くから意識を高め、後期に向けて、さらなる指導の充実を図っていききたいと考えている。特に、1,2年生対象とした先輩による地元企業説明会を本校で開催の計画中である。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。外部講師による講演や面接指導、担任による個別面談を充実させる。	学力テストや面接指導等により、実力がついた割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 学校幹旋就職試験の第1回目試験での内定率が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	3年生を対象に 12月にアンケート調査 3年生を対象に 秋に調査	

学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアマイスター取得率は、県内工業高校などと比べてどのようなものか。能登地区唯一の工業高校としてしっかり取り組んで欲しい。 ・普段、生徒は教科書を持ち帰って家庭学習をしているのか。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・各種資格取得率は、各高校の情報となっており集計や比較は難しい。 ・家庭学習の時間が少なく、教科書を学校に置いているが、実態としては多くの生徒が放課後に補習や自主学習などで教師をうまく活用して学校で学習している。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
2 生徒会活動や部活動を活性化させ、人間性に富み、心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会でベスト8以上、高体連表彰敢闘賞獲得を目指す。	ベスト8以上の運動部が A 50%以上（9部以上） B 40%以上50%未満（7～8部） C 30%以上40%未満（6部） D 30%未満（5部）	6月の県総体結果 ベスト8以上：8部 評価 B	6月の県総体でベスト8以上の成績をおさめた部活動は8部（弓道女、ソフトテニス男、バスケボール、柔道男、剣道男、ラグビー、ヨット男女）である。昨年この時点よりは3部も多い。また、ヨット部においては全国高校総体女子デュエットで優勝という輝かしい成績もおさめた。 後期の新人大会でも、新たにベスト8以上の部が増えることも期待され、総体・新人あわせて9部以上がベスト8以上の成績をおさめる可能性は大きい。
	② 文化部で部活動への重複加入を奨励し、学校祭以外にも校内外での発表・展示・公開・行事参加等の機会をさらに増加させる。	各文化部が学校内外で発表、展示、公開・行事参加等の機会を持った回数が、 A 7回以上 B 5～6回 C 3～4回 D 2回以下	各文化部対象に 7月に調査 A：1部 B：1部 C：4部 D：5部	調査結果は、昨年度の現時点と比較すると、回数は確実に増えている。昨年度からの働きかけにより、文化部の意識も変わってきている。各文化部の年間計画では、夏休みから2学期にかけて、発表や公開、行事参加を行うため、目標は達成される見込みである。 部の性質により回数の多少はあると思うが、昨年度よりも多い活動ができるよう働きかけていきたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足した B おおむね満足した C あまり満足できなかった D まったく満足できなかった	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：31% B：53% C：13% D：3% 評価：A・B合わせて84%	1学期の生徒会行事は、陸上競技大会、壮行式、挨拶運動、1日1善運動などであった。結果A・Bあわせて84%で、昨年の現時点より3ポイント少ない。しかし再検討の基準の80%を下回ることは見通しとしてはないであろう。 2学期は生徒会行事が多く、最大行事の羽工祭もあり、生徒会が主体的に行動し、全校生徒が満足いくよう工夫していきたい。
	④ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：17% B：55% C：23% D：5% 評価：A・B合わせて72%	7月に入り暑い日が続く、熱中症対策や食中毒の予防について、担任を通じてSHで連絡してもらったり、集会に於いて保健指導課から注意を促した。結果としては72%という数字となったが、今後も継続して心と体の健康管理について注意喚起を行い、生徒一人一人が自分の健康について考えて生活を送れるようにしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた生徒数で、部の数について考えていることはあるか。 ・保健室の利用状況はどうか。特定の生徒の利用などはあるのか。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数を考えると現在の部数は上限だが、生徒の自主的意欲から活動しており、精選等は将来の課題と考えている。 ・保健室登校生徒はおらず、多くの生徒は多少の不調をもとめせずに登校している。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
3 工業学習成果の提供や奉仕活動等を通して地域社会との連携を深め、環境保全や社会貢献に対する意識を高める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、校外でも1日1善運動を推奨する。	1日1善運動について A 毎日必ず実践している B できるだけ実践している C あまり実践していない D 全く実践していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A 18% B 60% C 17% D 5% 評価：A・B合わせて78%	昨年度の現時点はA・Bあわせて74%であった。比較すると4%向上している。判定基準も達成しており、生徒達のこの活動も3年目に入り根付いて来ている。 この現状に満足せず、残りの生徒がより積極的に善行するよう、2学期から生徒会として全校に働きかけていきたい。
	② 社会生活を営む上で、ルールやマナーの必要性を理解させ、実践的指導により交通ルールとマナーを遵守する生徒を育てる。	自分自身の自転車乗車ルール（規則）について A ルールを守り安全に運転している B ルールをある程度守り運転している C ルールをあまり守らず運転している D ルールを守らず運転している	生徒対象に 7月にアンケート調査 A 32% B 58% C 9% D 1% 評価：A・B合わせて90%	第1回目のアンケート調査では、A・B合わせて約90%と昨年度に比べおおむね意識が向上してきている。学年別では、2年生に交通ルールを守ろうとする意識がやや低い。今後も集会やLH、朝のあいさつ運動を通して交通ルールを初め生活態度の意識を高められるよう注意を促し、より一層組織的に取り組んでいきたい。
	③ Webページの定期的更新間隔を短くし、学校全体の情報公開のスピードを上げる。また、教育活動や部活動のタイムリーな情報を発信し、更新状況等を分かりやすくする。	ホームページを更新した回数が A 50回以上 B 40回以上50回未満 C 30回以上40回未満 D 30回未満	各担当・各部対象に 7月に調査 更新回数23回 評価：D（前期）	1学期の各課・科や部活動等のホームページの更新回数が23回となり、半期で判断すると20回以上をクリアしているが、現時点では判定基準Bの40回以上には達していない。Webページによるよりタイムリーな情報発信を目的に、昨年の2.7倍に基準設定しており、今後も教職員への情報発信をこまめに働き掛けて目標達成に向けて努力していきたい。
	④ 環境保全のこれまでの取組を継続し、ゴミ分別等が正しく行われているかを評価する。 職員・生徒がゴミを出さない意識づくりができるように、掲示物作成等により美化意識の向上を目指す。	15点以上の教室が A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満 ごみ減量について意識的に行動できたか A よくできた。 B おおむねできた。 C あまりできなかった。 D まったくできなかった。	ISO委員により 6月に各教室を一週間調査（1日20点満点で評価） 全クラス平均点：18点 評価：A 生徒対象に 7月にアンケート調査 A：35% B：55% C：5% D：5% 評価：A・B合わせて90%	第1回目は、6月25日～29日までの一週間を「環境週間」と位置づけ実施した。期間中は各クラスとも真剣に取り組み、平均点は18点で評価基準はAであった。実施期間以外での継続した清掃意識の向上に向け、2学期も取り組む。 第1回目のアンケートではA、B合わせて90%であり、意識的に取り組んでいるという結果になった。評価基準は満たしているが、まだAよりもBと答えた生徒が若干多かった。2学期以降も昼食時の放送や掲示物などでより一層、ごみ減量行動につなげていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の同僚や地域の同業者から、本校卒業生の挨拶のすばらしさを聞いてうれしく思った。 ・自転車マナーを守らないC・D評価は何年生が多いのか。マナーだけでなく、整備点検に心がけ、安全な乗車を指導して欲しい。夜道は危険なので、反射材を導入してはどうか。 ・HPはよく見てもらえているか。工業高校の特性を活かして生徒でHPの更新作業をしてはどうか。 ・地域共同避難訓練やボランティアに力を入れて、今後も地域へのアピールを続けて欲しい。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶など大切なマナーを校外でも行って欲しいと考えて指導している。 ・1・2年生の自転車乗車マナーが良くなってきている。学校までの乗車は徹底指導できるが、自宅から最寄り駅までの利用状況の把握が必要と考える。 ・HPの内容は「公表」するものであり、作成には細心の注意を払っている。その面で生徒の関わりも難しい面があると考えている。 ・地域共同避難訓練やボランティアには、今後も力を入れて取り組み、防災意識を高めたり地域との連携を深めたい。 			